

NPOじっくらあと 理事長 小浦 詩 先生

本日は貴重なお話をありがとうございました。

私の出身地は新潟県の中越地方で中越地震の被害に遭った地域でした。

私は実家を離れていましたが、家族は車上生活を余儀なくされました。

豪雪地域のため1階がガレージになっている家から、ふくよかで足の悪い祖母を外階段から避難させるのに家族で苦労したことや、食料の確保や調理など、近所の方たちと協力し合ったことなどを聞いていました。また、数年後、保健師さんに当時の状況についてインタビューをしたときには、人的被害が少なかった理由の一つに田舎ならではのコミュニティの力が大きかったと聞きました。どこの家に高齢の方が一人で住んでるとか、病気を持っているとか、行政機関の方が知らない情報を地域の皆さんが持っていたからこそ、地震の後には声を掛け合って避難できたため、その地域は、安否確認がされない方がいなかったとのことでした。

この話と先生のお話をふまえ、人は一人では生きていけない、支えあって生きているということを感じましたし、家族や地域といったコミュニティの広がりや発展にはコミュニティを構成する人への興味・関心が何より大事で、それを様々なコミュニケーション方法で意思疎通を図り、関係を作っていくことが不可欠なのではないかと思いました。

思春期の頃はそのコミュニティがうっとうしかったので、不思議な気持ちです…。

今は、自分が子供を持つようになり、都会での生活ですが、自治会に入り、近所の方との挨拶や会話を通して子どもや自分たちについて知ってもらい、深くはなくてもコミュニティをつくっておくこと、それがいざという時の支えや助けになると思うようになりました。

先生の活動は本当に素晴らしいと思いますが、一人ではなしえなかったと思います。先生の活動に賛同する人がいて、先生の支援を必要とする人がいて、コミュニティが形成されたからこそ、きっと今の発展があるのだ、と思うと、同じ方向を向いた人が集まった時のパワーってすごいですね！でもただコミュニティを作るだけでは意味がなくて、その中心にいる人の思いや考え、人となりによってその広がりや発展の仕方がかわってくるのだと思います。先生から感じる強い意志と一緒に探す、イメージを共有するという姿勢、お人柄がコミュニティの柱となり、これからも発展していくのではないかと思います。

いろいろなことに思いや考えを巡らせながら、楽しく聞かせていただきました。

ありがとうございました。

国際医療福祉大学大学院修士課程 24s1151矢吹美樹